

授業科目(ナンバリング)	介護概論ⅢB(介)(DA402)			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	4年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>これまでの「介護概論ⅠA」「介護概論ⅠB」「介護概論ⅡA」「介護概論ⅡB」「介護概論ⅢA」で学んだ介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみの理解をさらに深め、利用者の生活をよりよく、安心できるものとするために、新しい介護の理念に則り、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指していく。</p> <p>本講義では、介護の総まとめとして、介護理念に則り、介護を捉えることができるようになることを目指す。そして、介護福祉の専門職としての能力と態度を養い、介護福祉士としての専門的知識・技能を修得し、様々な課題に適用して解決を図ることを目標とする。</p>							④⑤⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 介護理念に則った自分自身の介護観について説明できる。 事例に基づき、介護福祉士として知識や技術を活用し、安全かつ安心できる介護を説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 発表等 	40% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 介護場が介護の理念に則っているか指摘できる。 身体拘束や高齢者虐待防止のための方策を指摘できる。 				<ul style="list-style-type: none"> 事例への取り組み 	20%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 尊厳を支える・自立を支援する介護について、具体的な指摘や対応策を協調しながら解決することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 事例への取り組み 	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者介護の課題や障害児・者の課題を理解することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 事例への取り組み 	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 授業での事例への取り組みや態度、意見の表出、発表等を50%で評価する。 介護のまとめとして、介護福祉士としての取り組みに関する課題レポートを課す。50%で評価する。評価後は授業等で紹介する。 							
授業の概要							
<p>介護の基本のまとめとなる科目である。これまでの介護の学びを活かし、介護理念を実際の介護場面に反映できるよう、事例に取り組みながら学びを深めていく。また、介護の理念に則った、利用者主体の介護についてペアワークやグループワークを取り入れた議論やプレゼンテーション等の方法を用いて理解を深めていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書： 荘村明彦 (2019)『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅰ』中央法規株式会社 荘村明彦 (2019)『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』中央法規株式会社</p> <p>参考書：『国民の福祉と介護の動向』厚生統計協会 (近年の統計動向の確認時、本書を活用する)</p> <p>指定図書： 荘村明彦 (2019)『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅰ』中央法規株式会社 荘村明彦 (2019)『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』中央法規株式会社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本講義で学んだことから、介護実践の基盤となる、考え方や専門知識を獲得し、自分自身の介護観を作り出してください。そのためにも、事前に提示された授業テーマについて、これまで培った知識・技術で検討し、書籍やメディアから最新の情報を入手して授業に臨まれることを期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	理念の実現に向けて① <u>介護福祉士の倫理①</u>	介護の理念を実現していくために、自ら考える。「身体拘束がなくならないのはなぜか」検討する。	予習：身体拘束の現状調べ 復習：身体拘束の弊害の整理
2	理念の実現に向けて② <u>介護福祉士の倫理②</u>	利用者の人権を守る介護の課題を考える。「言葉や態度等で利用者の自由を拘束する場面」の検討を行う。	予習：利用者の人権を考える 復習：高齢者虐待の整理
3	事例検討①	様々な在宅高齢者の QOL を高める介護について考える。「老老介護問題の解決に向けた支援」	予習：老老介護問題解決を考える 復習：客観的 QOL の整理
4	<u>協働する多職種の役割と機能①</u> (事例検討②)	様々な在宅高齢者の QOL を高める介護について考える。「孤立した独居高齢者の生活の安全保障」「孤独死」	予習：孤独死の現状調べ 復習：孤立の原因の整理
5	<u>協働する多職種の役割と機能②</u> (事例検討③)	様々な在宅高齢者の QOL を高める介護について考える。「介護予防」	予習：介護予防を考える 復習：介護予防の整理
6	事例検討④	様々な在宅高齢者の QOL を高める介護について考える。「認知症高齢者の地域での生活継続」	予習：認知症高齢者の在宅生活継続を考える 復習：認知症施策等の整理
7	事例検討⑤	様々な障害者の QOL を高める介護について考える。「呼吸機能障害者の在宅生活維持」	予習：呼吸機能障害者の現状調べ 復習：介護職が行える医療的ケア（痰吸引）について確認し、整理する。
8	<u>介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①</u> (事例検討⑥)	様々な障害者の QOL を高める介護について考える。「在宅生活を希望している障害者」	予習：障害者の生活環境の現状調べ 復習：脱施設化と個別ケアについて整理する。
9	事例検討⑦	様々な障害者の QOL を高める介護について考える。「精神障害者の生活支援での人権尊重」	予習：精神障害者の生活状況調べ 復習：精神障害者の生活支援の内容を整理する。
10	<u>介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②</u> (事例検討⑧)	様々な障害者の QOL を高める介護について考える。「在宅の肢体不自由者の居住環境、福祉用具活用」	予習：肢体不自由者の在宅居住環境の現状調べ 復習：ICF モデルの整理
11	<u>協働する多職種の役割と機能③</u> (事例検討⑨)	様々な障害者の QOL を高める介護について考える。「視覚障害、聴覚障害者への情報提供のあり方」	予習：視覚・聴覚障害者の生活現状調べ 復習：視覚・聴覚障害での生活障害の整理
12	<u>協働する多職種の役割と機能④</u> (事例検討⑩)	様々な障害児の QOL を高める介護について考える。「障害児の生活支援、家族（母親）支援」	予習：障害児の生活現状調べ 復習：レスパイトケアの整理
13	事例検討⑪	これからの高齢者介護の課題や、障害児・者の介護の課題について考える。	予習：介護の課題を考える 復習：配付資料の再読
14	専門職としての介護福祉士	専門職としての介護福祉士のあり方を考える。同時に、介護福祉士としての生涯学習や研修の必要性を理解する。	予習：介護福祉士のあり方を考える 復習：求められる介護福祉士像と資格取得時の到達目標の整理
15	介護観	変化する社会や人間を見据えた介護のあり方を考える。同時に、現時点の自分の介護観を明確にする。	予習：現時点での自分の介護観を考える 復習：自分自身の介護観まとめ